METAL RECYCLE BUSINESS COMPANY

エコアクション21
認証番号 0005408

有限会社
金田商事

2020年度環境経営レポート

（対象期間：2020年　10月～2021年　9月）

発行日：　　2021年12月6日

有限会社金田商事　核心的価値

「やり方」より「あり方」が重要

経 営 理 念

人と資源の活躍創造

当社は、企業活動を通じて、

人と資源が活躍する世界を創ります。

セルフイメージ

当社は、『資源ご処分解決業』

資源の課題解決と価値創造

当社は、資源の価値を再認知し、「もったいない」を自ら体現する企業であり、
使命感と熱意をもって、当社が持つノウハウ・企業間リレーションシップを
フル活用して、資源全般の売買、処理を行い、お役に立つ企業を目指します。

カンパニースピリッツ

『一日一笑』、『一日ひと汗」

『イチありがとう』

んでもって、『1 チャリンチャリン』

そして、幸せを見出そう！！

理想の社員像

「One for all, All for one」の精神に立ち、

仲間を信じて、ひらくひと

強く、優しく、おおらかな、自ら拓く人であれ！

2020年度　環境経営レポート
目次

Ⅰ.〈環境経営方針〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P3

Ⅱ. 登録事業所の概要・・・・・・・・・・・・・・・・P4

Ⅲ. 主な環境負荷の実績・・・・・・・・・・・・・・P9

Ⅳ. 環境経営目標及びその実績・・・・・・ ・・P9

Ⅴ. 環境経営計画の取組結果とその評価、
　　次年度の環境経営計画・・・・・・・・・・P11

Ⅵ. 環境関連法規制等の遵守状況・・・・・・P17

Ⅶ. 代表者による全体の評価と見直し・指示・・・P18

Ⅷ. その他の取り組みを紹介・・・・・・・・・・・・P19

Ⅰ.

《有限会社　金田商事　環境経営方針》

＜環境経営理念＞

弊社は、再資源化が可能である金属屑の売買とそれに付帯する業務を主要事業としており、まさにリサイクルフローの一端を担う企業としての責任から、すべての事業活動において発生する廃棄物の有価物化および再エネルギー化の方法を探求・実行し、それと併せて省エネルギー化・省資源化・省力化を推し進め、経済性と環境負荷低減の効果を相乗で高める経営を自主的かつ継続的に行ないます。

人類を含む地球上の生物にとって、共通の財産である環境を保全・改善しつつも、持続可能な発展を遂げるため、ここに弊社の環境経営方針を定めます。

〈環境保全への基本方針〉

1. 次の事項について環境経営目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。

①二酸化炭素(CO2)の排出量削減。
②一般廃棄物及び産業廃棄物の排出量削減。
③節水による水資源使用量の削減。
④社会全体の有価物及び産業廃棄物の適正な資源循環を推進するため、
　取扱量の増加を目指す。
⑤地域貢献活動の実施。
⑥受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮。

2. 環境関連法規制や弊社が約束したことを遵守いたします。

3. 環境への取組みを環境経営レポートとして、取りまとめ公表します。

制定日：2009年11月1日
改定日：2020年10月1日

取締役社長　金田 大地

環境経営方針を表すキャッチフレーズ

「人と資源のストーリーを見つめ続け、
新たなる価値の創造を通して、社会に貢献する。」
「まずは、身近な金属から。」

Ⅱ.登録事業所の概要

（1）事業所名及び代表者名

有限会社　金田商事
取締役社長　金田　大地

（2）所在地

本社：兵庫県伊丹市口酒井二丁目7番21号　工場も同所在地

（3）設立年月

平成17年10月3日

（4）資本金

金1,600万円

（5）認証・登録の対象組織・活動

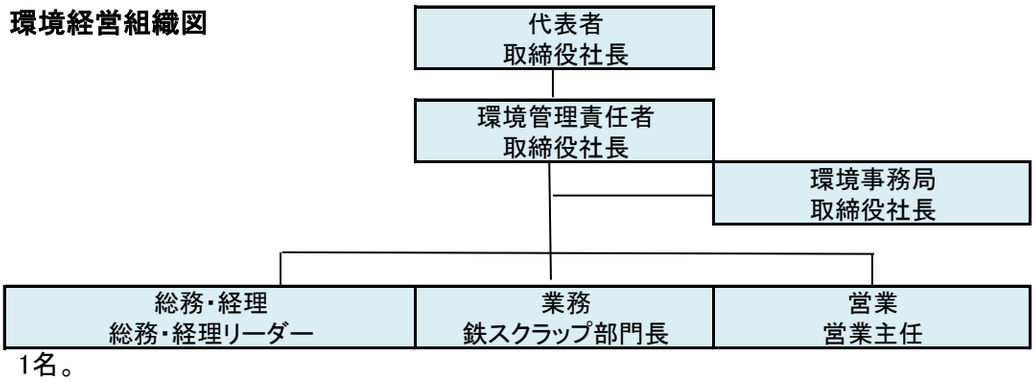
登録事業者名：有限会社金田商事

対象事業所：本社

活動：金属くず商（金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買）、古物商（古物の売買）、
産業廃棄物収集運搬業

（6）事業年度　10月～翌年9月

（7）環境経営組織図



・株主　1名。
・取締役（役員）　1名
・監査役の選出義務なし。

総務・経理	労務・財務・金銭管理に関する業務を行なっております。
業務	商材である金属ｽｸﾗｯﾌﾟ・産業廃棄物の取引全般に関する業務を行なっております。
営業	売上・仕入顧客管理に関する業務を行なっております。

環境経営システム　役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、 技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・経営における課題とチャンスの明確化 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し・指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境経営の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境経営計画・取り組みの実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開 （事務所に備付けと地域事務局への送付）
部門長	・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 テスト、訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

（8）環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者　取締役社長　金田　大地　　TEL:072－785－1708

担当者　同上

（9）事業内容

金属くず商（金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買）、古物商（古物の売買）、産業廃棄物収集運搬業

（10）事業の規模　　基準年度:2017年度　対象年度:2020年度

総売上高　　4.60億円（2020年度）

主要商品取り扱い量　　6,790.8t（2020年度）※事業年度期末時点

活動規模	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
取り扱い数量	t	7063.6	6974.5	6341.1	6790.8
内訳:金属スクラップ	t	7031.6	6937.9	6283.5	6752.1
内訳:産業廃棄物（収集運搬）	t	32.0	36.7	57.6	38.7
売上高（税抜）	百万円	401	331	255	460
従業員	人	5	6	6	6
床面積	m^2	950	950	950	950
保有貨物車両台数	台	4	5	5	5
保有乗用車両台数	台	2	2	2	2
保有荷役車両台数	台	6	6	6	6

（11）保有諸許可

・金属くず商(兵庫県公安委員会 許可 第1370500002号)

金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買。

・古物商(兵庫県公安委員会 許可 第631370600038号)

古物の売買。

主たる区分:事務機器類

扱い品目:自動車・自動二輪、及び原付・事務機器類・機械工具・道具類

・産業廃棄物　収集運搬業

1.)大阪府許可番号 02700132377号

許可の年月日:令和4年1月22日

許可の有効年月日:令和9年1月21日

1.事業の範囲

事業の区分:積替え・保管を含まない

産業廃棄物の種類:

1.廃プラスチック類 2.紙くず　3.木くず　4.繊維くず　5.ゴムくず　6.金属くず

7.ガラスくず　8.がれき類　石綿含有産業廃棄物を含む

水銀使用製品産業廃棄物を含む　水銀含有ばいじん等を除く

以上8種類

2.許可の条件　なし

3.許可の更新又は変更の状況

平成19年1月22日当初許可

令和　4年1月17日更新許可

4.府内の政令市による積替え許可の有無　無

5.規則第9条の2第8項の規定による許可証の提出の有無　無

以下余白

（12）施設の状況

保有設備

	車両詳細	台数	使用燃料・動力	備考
運搬車両	10t積み平ボディー車	2	軽油	
	7t積み平ボディー車	1	軽油	
	4t積みユニック搭載平ボディー車	1	軽油	
	4t積みアームロール車	1	軽油	
	軽トラック車	1	ガソリン	前年まで乗用車両としていた。
荷役車両	2.5t揚力 フォークリフト	3	軽油	取引先構内車を含む。
	2.5t揚力 フォークリフト	1	LPG1台	取引先構内車。
	油圧式バックホー（0.25㎥クラス）	1	軽油	
	油圧式バックホー（0.7㎥クラス）	1	軽油	
乗用車両	普通乗用車	1	ガソリン	

（13）産業廃棄物収集運搬実績

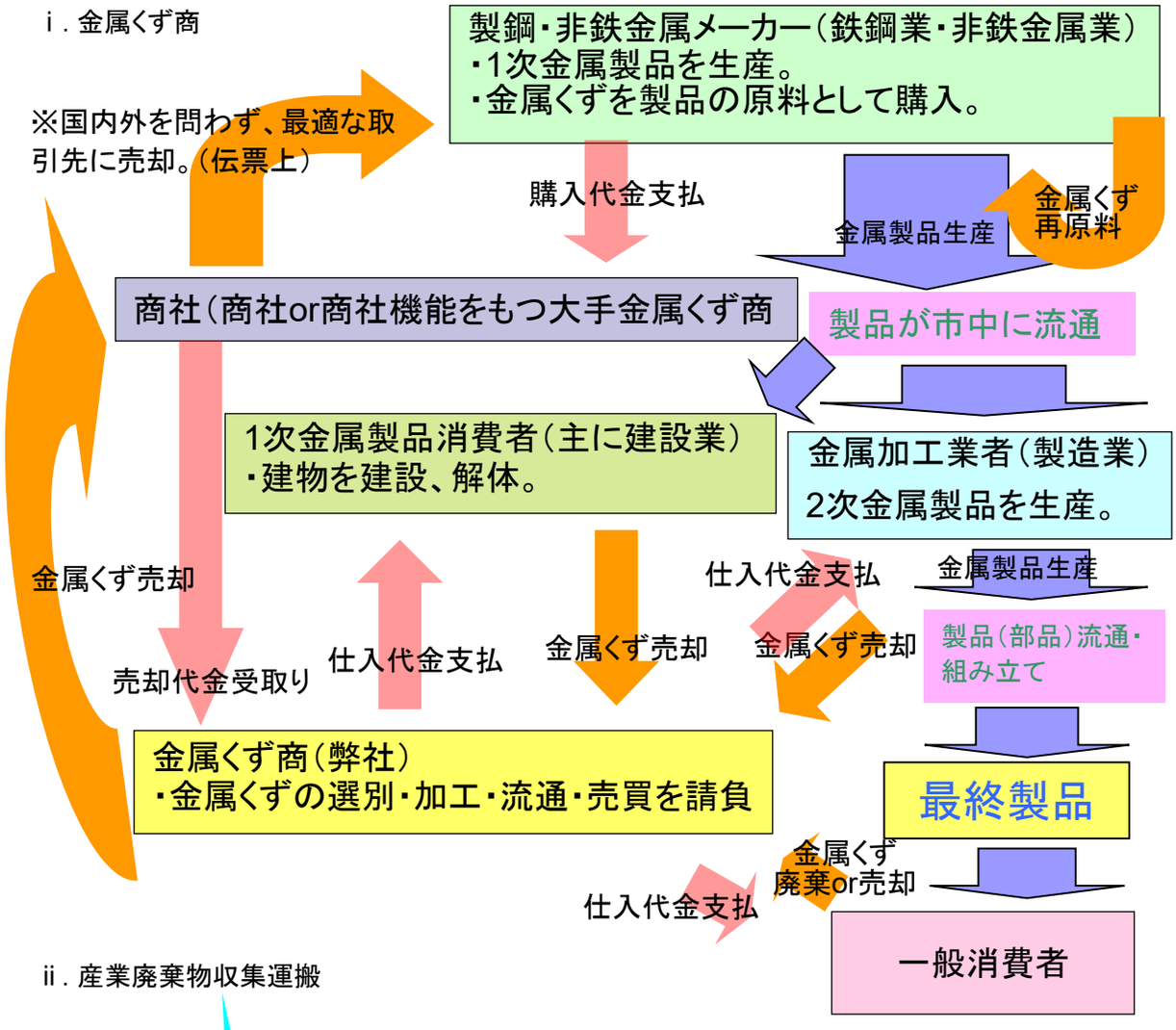
産業廃棄物（収集運搬）	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
廃プラスチック/混合廃棄物	t	32.0	36.7	57.6	38.7
産業廃棄物収集運搬　合計	t	32.0	36.7	57.6	38.7

（14）廃棄物処理料金

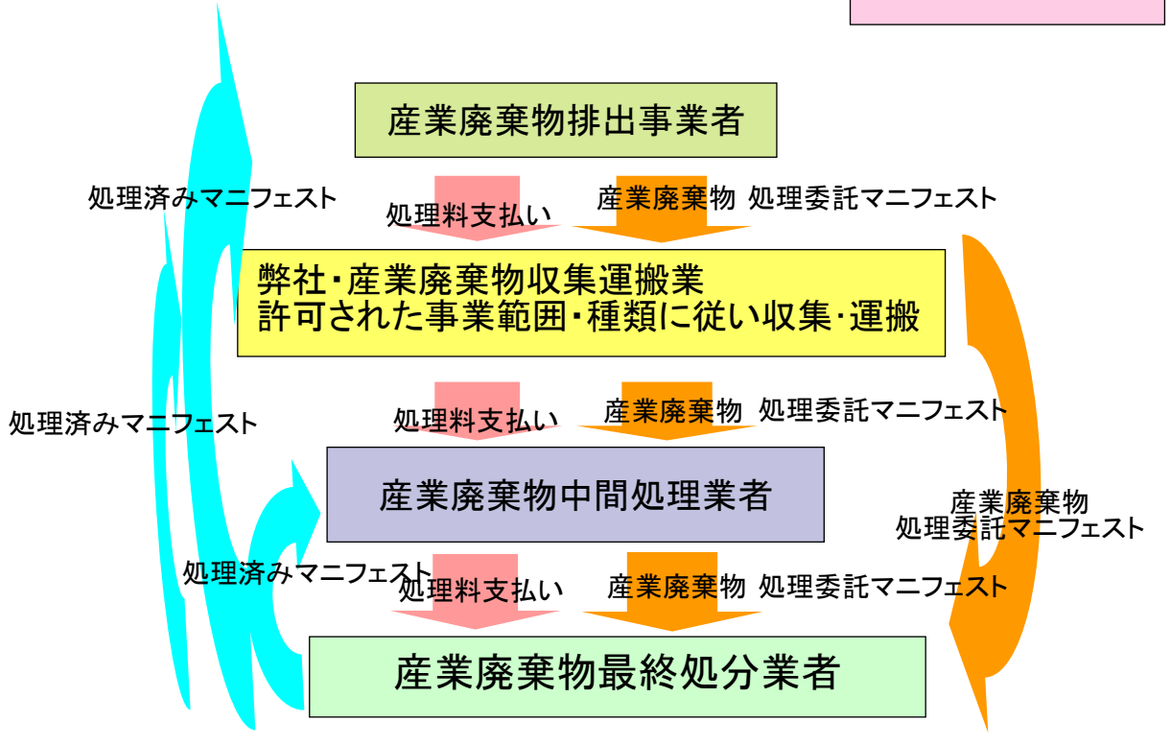
取引形態により、各々の見積書並びに契約書により、決定、明示いたします。

（15）事業計画及び事業概要

ⅰ．金属くず商



ⅱ．産業廃棄物収集運搬



Ⅲ. 主な環境負荷の実績

項　目	単位	基準年度 2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
二酸化炭素排出量 （対象：エネルギー総量）	kg-CO_2	56,891.4	64,586.2	70,732.7	81,183.3
廃棄物排出量	t	9.20	6.66	6.19	8.68
一般廃棄物量排出量（自社）	t	0.22	0.19	0.18	0.21
一般廃棄物量排出量(選別)	t	1.13	0.57	0.58	0.47
産業廃棄物排出量（自社）	t	0.06	0.05	2.12	1.80
産業廃棄物排出量（選別）	t	7.80	5.85	3.31	6.20
水使用量	㎥	35.00	42.00	44.00	39.00
受託した産業廃棄物の処理量	t	31.98	36.65	57.64	38.70

※小数点以下の処理方法につき、「目標設定書」と許容可能な極少誤差が生じています。
電力のCO2排出係数は、2017年度以降0.022kg-CO2/kWh〔出光グリーンパワー(株)〕に変更。
電力のCO2排出係数は、2020年度以降 0kg-CO2/kWh〔出光グリーンパワー(株)プレミアムゼロプラン®を導入〕

Ⅳ. 環境経営目標及びその実績

・環境負荷削減目標

項目＼年度		基準値	2020年度		2021年度	2022年度
		基準年度 （2017年度）	（目標）基準年度比99.25%～	（実績）	（目標）基準年度比99.00%～	（目標）基準年度比98.75%～
1.電力の二酸化炭素排出量削減※1	kg-CO_2	201.366	199.856	0.000	199.352	198.849
	kWh	9,153.0	9,084.4	9,155.0	9,061.5	9,038.6
原単位：取扱商品1t当たり	kg-CO_2/t	0.029	0.028	0.000	0.028	0.028
2.軽油の二酸化炭素排出量削減	kg-CO_2	50,997.513	50,615.032	78,200.844	50,487.538	50,360.044
	L（リットル）	19,432.5	19,286.8	29,798.3	19,238.2	19,189.6
原単位：取扱商品1t当たり	kg-CO_2/t	7.219	7.164	11.516	7.147	7.129
3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減	kg-CO_2	2,540.500	2,521.446	325.682	2,515.095	2,508.743
	L（リットル）	1,094.3	1,086.1	140.3	1,083.3	1,080.6
原単位：取扱商品1t当たり	kg-CO_2/t	0.360	0.356	0.048	0.356	0.355
4.LPGの二酸化炭素排出量削減	kg-CO_2	3,152.058	3,128.418	2,656.735	3,120.537	3,112.657
	kg	1,050.0	1,042.1	885.0	1,039.5	1,036.9
原単位：全取扱商品1t当たり	kg-CO_2/t	0.446	0.442	0.391	0.442	0.441
二酸化炭素排出量合計	kg-CO_2	56,891.437	56,464.751	81,183.261	56,322.523	56,180.294
原単位：取扱商品1t当たり	kg-CO_2/t	8.054	7.990	11.955	7.974	7.954
5.一般廃棄物の削減※2	上段：総量t 下段：（t/人）	0.215 0.043	従業員1人当り0.043t/人以下	0.205 0.034	従業員1人当り0.043t/人以下	従業員1人当り0.043t/人以下
6.産業廃棄物の削減※3	上段：総量t 下段：（kg/t）	0.060 0.0085	商品数量1t当り0.0085kg以下	1.800 0.2651	商品数量1t当り0.0085kg以下	商品数量1t当り0.0085kg以下
7-1.有価物から除去廃棄物	（t）			6.20		
8.節水	上段：総量㎥ 下段：（㎥/人）	35.00 5.名 使用量1人換算8.0㎥/人≦40㎥	35.00 従業員7㎥/人≦35㎥	39.00 従業員7.0㎥/人	35.00 従業員7㎥/人≦35㎥	35.00 従業員7㎥/人≦35㎥
9.化学物質使用量の削減※4	使用実績なし		使用実績なし		使用実績なし	

※1電力のCO2排出係数は、2017年度以降0.022kg-CO2/kWh〔出光グリーンパワー(株)〕に変更。
電力のCO2排出係数は、2020年度以降 0kg-CO2/kWh〔出光グリーンパワー(株)プレミアムゼロプラン®を導入〕
※2　6.一般廃棄物の削減目標対象は、自社発生に限る。選別ダスト由来は、対象外。
※3　7.産業廃棄物の削減の削減目標対象は、自社発生に限る。選別ダスト由来は、対象外。
※4　化学物質を使用していないため目標設定していない。

・取り扱い数量目標

項目＼年度		2019年度 2017年度	2020年度		2021年度	2022年度
		(基準年度)	目標	実績	目標	目標
9.金属屑(有価物)の取扱量(本年度目標:2019年度比102%)	トン	2019年度 6,283.50	6,409.19	6,752.05	6,537.37	6,668.11
			102%	105%	104%	106%
10.受託した産業廃棄物の処理量(許可区分:収集運搬のみ)本年度目標:2017年度比104%	トン	2017年度 31.98	33.25	38.70	33.89	34.53
			104%	116%	104%	106%

・地域貢献活動

項目＼年度		2017年度	2020年度		2021年度	2022年度
		(基準年度)	目標	実績	目標	目標
11.弊社周辺の環境美化と 付近住民様の環境意識向上①清掃活動	単位:回	23	24	19	12	12
清掃活動…空き缶・ペットボトル拾い	単位:本	計数管理のみ	計数管理のみ	計数管理のみ	計数管理のみ	計数管理のみ
項目＼年度		2017年度	2020年度		2021年度	2022年度
		(基準年度)	目標	実績	目標	目標
②周辺住民の方々からの金属くず買い受け。	単位:kg	90,039.6	92,740.8	96,406.3	93,641.1	94,541.5
			103%	104%	104%	105%

・受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮

項目＼年度		2019年度	2020年度		2021年度	2022年度
		(基準年度)	目標	実績	目標	目標
12. ①産業廃棄物からの有価物収拾	単位:kg	9,220.1	9,220.1	13,756.0	基準年度比100%以上	基準年度比100%以上
②収集運搬時の飛散事故、漏洩事故0(ゼロ)	単位:件	0	0	0	0	0

Ⅴ. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

取り組み計画	達成状況		単位	評　価　結果と次年度の取組内容
Ⅰ.二酸化炭素排出量削減（全体） 基準年度比99.25%	基準年度	56,891.4	kg-CO_2	×目標未達成 目標4項目中　達成 3　未達成1
原単位：取扱商品1t当たり		8.05	kg-CO2/t	
達成手段 下記の１～4による。	目標	56,464.8	kg-CO_2	目標が7.99kg-CO2/tで実績が11.98kg-CO2/tで未達成。総括としての全体評価は、目標値比149%で、目標未達成。前年度の目標値比141%より悪い結果となった。ただ、達成している項目は前年度を上回った。
原単位：取扱商品1t当たり		7.99	kg-CO2/t	
1.電力の二酸化炭素排出量削減 2.軽油の二酸化炭素排出量削減 3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減 4LPGの二酸化炭素排出量削減	実績	81,183.3	kg-CO_2	
		11.95	kg-CO2/t	
達成手段実践状況評価 下記の１～4による。	削減量	-24,718.5	kg-CO_2	
	目標対実績比率	1.44		
1.電力の二酸化炭素排出量削減	基準年度	201.4	kg-CO_2	○　目標達成
		9,153.0	kWh	
原単位：取扱商品1t当たり		0.029	kg-CO2/t	
*電力使用量の二酸化炭素排出係数　関西電力（2013年）0.516kg-CO_2/kWh。出光プレミアムグリーンパワー0.022kg-CO2/kWh。	目標	199.9	kg-CO_2	使用量（CO2は、別記載）達成状況：月次目標達成6回。累計目標達成8回。CO2排出量　達成状況：月次目標達成12回。累計目標達成12回。評価：良い。商品数量対の原単位評価　使用量　目標達成。良い。商品数量対の原単位評価　CO2排出量　目標達成。目標が0.030kg-CO2/tで実績が0.030kg-CO2/tで達成。現在の電力供給会社は、バイオマス発電、地熱発電などをメインにしており、二酸化炭素排出係数が0.022kg-CO2/kWhと極少。電力使用量は増加しているが、CO2の排出量は相対的に削減。また、電力供給会社から「再生可能エネルギー100%電力供給証明書」も交付されるに至り、実質的CO2排出量は、極少か0に等しい。
		9,084.4	kWh	
原単位：取扱商品1t当たり		0.028	kg-CO2/t	
①冷暖房の控えめな使用 （冷房28℃　暖房20℃） ②クールビズ・ウォームビズ運動	実績	0.0	kg-CO_2	
		9,155.0	kWh	
原単位：取扱商品1t当たり		0.000	kg-CO2/t	
③照明・事務機器等の不使用時の電力削減。	削減量	199.86	kg-CO_2	
		-70.65	kWh	
上記　達成手段実践状況評価 ①…○設定温度を遵守できている。 ②…○適当な服装ができた。 ③…○必要以外消灯、電源OFFを行っている。	目標対実績比率（使用量）	0.00		【次年度取り組み】 自然光、自然風の利用検討を指示。

取り組み計画	達成状況		単位	評　価　結果と次年度の取組内容
2.軽油の二酸化炭素排出量削減	基準年度	50,997.51	kg-CO_2	× 目標未達成
		19,432.51	L（ﾘｯﾄﾙ）	
原単位：取扱商品1t当たり		7.22	kg-CO2/t	
エコドライブ運動展開 ①アイドリングストップ ②急加速の抑制 ③冷房の控えめ使用 ④増車・買換え時は燃費マークを優先する ⑤車両整備・点検の実施	目標	50,615.03	kg-CO_2	使用量（CO2は、別記載）達成状況：月次目標達成0回。累計目標達成0回。CO2排出量　達成状況：月次目標達成0回。累計目標達成0回。評価：悪い。目標が7.86kg-CO2/tで実績が11.52kg-CO2/t　目標値比146.5%で未達成。取引数量が基準年度比で、107.46%に増加し、軽油の消費量が通期累計目標値比146.0%。前年度の同148%より2%改善している。ただ、以前（4年前）よりも使用量とCO2排出量が格段に増えた原因は、業務効率と収益性を向上させるために商品フローの内製化などを行ったことにある。結果、経常利益は、基準年度比122%に上昇し、経営的評価は良。今期は、前年度のコロナウィルス禍での取扱量減少に対し、需要の反動から増加に転じ、前年に比べ、原単位当たりの使用量目標が2%改善している。今後も取扱数量増量と電気荷役機の導入検討や燃費効率の向上などの解決策が必要。
		19,286.77	L（ﾘｯﾄﾙ）	
		7.16	kg-CO2/t	
	実績	78,200.84	kg-CO_2	
		29,798.29	L（ﾘｯﾄﾙ）	
上記　達成手段実践状況評価 ①…○　出来るだけ行っている。 ②…○　出来るだけ行っている。 ③…○　出来るだけ行っている。 ④…○　増車時、燃費マーク確認済。 ⑤…○　車検・オイル交換、タイヤ交換等実施。		11.52	kg-CO2/t	
	削減量	-27,585.81	kg-CO_2	
		-10,511.52	L（ﾘｯﾄﾙ）	
	目標対実績比率	1.55		【次年度取り組み】環境負荷を小さくする代替燃料との入れ替え検討を指示。
3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減	基準年度	2,540.50	kg-CO_2	○ 目標達成
		1,094.26	L（ﾘｯﾄﾙ）	
原単位：取扱商品1t当たり		0.360	kg-CO2/t	
エコドライブ運動展開 ①アイドリングストップ ②急加速の抑制	目標	2,521.45	kg-CO_2	達成状況：使用量（CO2は別表）目標0.17L/tに対し、実績0.02L/t。達成月次目標達成11回。累計目標達成11回。CO2排出量目標が0.39kg-CO2/tで実績が0.05kg-CO2/tで、目標値比12.8%の好成績で達成。ガソリン使用車であったフォークリフト1台が無くなったことと、コロナ禍で、営業車での営業活動自粛でガソリンの使用料が減り、ほぼ軽トラック1台なので目標達成。
		1,086.05	L（ﾘｯﾄﾙ）	
原単位：取扱商品1t当たり		0.356	kg-CO2/t	
③冷房の控えめ使用 ④増車・買換え時は燃費マークを優先する ⑤車両整備・点検の実施	実績	325.68	kg-CO_2	
		140.28	L（ﾘｯﾄﾙ）	
原単位：取扱商品1t当たり		0.05	kg-CO2/t	
上記　達成手段実践状況評価 ①…○　出来るだけ行っている。 ②…○　出来るだけ行っている。 ③…○　出来るだけ行っている。 ④…○　車両の買換え時確認済。 ⑤…○　車検・オイル交換等実施。	削減量	2,195.76	kg-CO_2	
		945.77	L（ﾘｯﾄﾙ）	
	目標対実績比率	0.13		

<table>
<tr><td rowspan="3"><u>4.LPGの二酸化炭素排出量削減</u></td><td rowspan="3">基準年度</td><td>3,152.06</td><td>kg-CO2</td><td colspan="3" rowspan="3">○　目標達成</td></tr>
<tr><td>1,050.00</td><td>kg</td></tr>
<tr><td>0.45</td><td>kg-CO2/t</td></tr>
<tr><td rowspan="10">エコドライブ運動展開

①アイドリングストップ
②急加速の抑制
③車両整備・点検の実施

<u>上記　達成手段実践状況評価</u>
①…○　出来るだけ行っている。
②…○　速度超過警報器を装備済み。
③…○　特定自主検査実施済み。</td><td rowspan="3">目標</td><td>3,128.42</td><td>kg-CO2</td><td>基準年度
取扱数量(t)</td><td>当年度
取扱数量(t)</td><td rowspan="4">使用量(CO2は別表)達成状況:達成　月次目標達成12回。 累計目標達成12回。
月次・累計目標未達成0回。
評価:良い。個別原単位目標が0.49kg-CO2/tで同実績が0.39kg-CO2/t達成。LPG車使用の1顧客の基準年度(2017)の取引数量2,810トン、当年度2,233トンと基準年度は、当年度の1.25倍、当年度は、基準年度の0.794倍となっている。使用量は、目標値比84.92%。コロナ禍で年間取引数量は前年度より減少で、使用量減少。【次年度取り組み】エコドライブを指示。</td></tr>
<tr><td>1,042.13</td><td>kg</td><td>2,810.00</td><td>2,233.00</td></tr>
<tr><td>0.44</td><td>kg-CO2/t</td></tr>
<tr><td rowspan="3">実績</td><td>2,656.73</td><td>kg-CO2</td></tr>
<tr><td>885.00</td><td>kg</td></tr>
<tr><td>0.39</td><td>kg-CO2/t</td></tr>
<tr><td rowspan="2">削減量</td><td>471.68</td><td>kg-CO2</td></tr>
<tr><td>157.13</td><td>kg</td></tr>
<tr><td>目標対実績比率</td><td>0.85</td><td></td></tr>
</table>

取り組み計画	達成状況		単位	評　価　結果と次年度の取組内容
5.一般廃棄物の削減	基準年度	0.215	t	○　目標達成
		0.043	t/人（年間）	
①分別ボックスの設置 ②裏紙使用 ③古紙のリサイクル化	目標	従業員1人当り0.043t/人以下	t	社員数当たり　達成状況：優良　廃棄量達成状況：良　金属スクラップ選別由来一廃と徹底して分別管理を行った。紙の梱包材や古紙に関しては、集積場を設け、一定量になると、古紙問屋で資源として譲渡した。排出抑制策の継続を指示。 【次年度取り組み】削減に関するアイデアを募ることとした。
	実績	0.205	t	
	実績（1人換算）	0.034	t/人（年間）	
上記　達成手段実践状況評価 ①…○　可燃・不燃・資源と分別。 ②…○　再利用裏紙ファイル設置済み。 ③…○　再生事業者へ譲渡。	削減量	0.01	t	（取り組み計画外の取り組み） 商品（金属スクラップからの選別ダスト発生）からの発生量は、 当年度は、前年度から減少。再資源化率は、年間で51.1%と前年（51.72%）から悪化。ただ、一廃の品質が厳しくなり、産廃扱いとなり、そちらが増加しているので、判断が難しい。
	削減量（1人換算）	0.01	t/人（年間）	
	目標対実績比率	0.795		
6.産業廃棄物の削減	基準年度	0.06	t	×　目標未達成
①分別ボックスの設置 ②分別意識の向上を目的とした社員教育 ③分別の徹底による有価物化	目標	商品数量1t当り0.0085kg以下	kg/t	評価：やや悪い。年間累計量1.8t　自社由来の産業廃棄物発生量は、全12か月間で、1.8t発生し、前年度より減少した。これは、破損で不要となったコンクリート擁壁（2.1t）を解体し、鉄筋0.3tとコンクリ1.8tに分け、コンクリート再生処理業者に処理委託した為。その他は、計量できないほどごく少量で、金属スクラップ選別由来の産業廃棄物と徹底して分別している。 【次年度取り組み】継続した努力を指示。
上記　達成手段実践状況評価 ①…○　大まかな品目ごとに分別。 ②…○　随時、口頭によるミーティングと指導を行なっている。 ③…○　一部再生事業者へ売却。	実績	0.2651	kg/t	
	削減量	−0.25657	kg/t	（取り組み計画外の取り組み） 商品（金属スクラップからの選別ダスト発生） 管理・削減目標ではない項目であるが、廃棄物を排出しないという意志で活動を行っているが、有価物であった再利用可プラスチック類が、輸出禁止により、当期はすべて産廃となり、再資源化率は0%となった。
目標対実績比率　　実績÷目標 0.2651kg/t÷0.0085kg/t	目標対実績比率	31.18		
7.節水	基準年度	35.00	㎥	○　目標達成
		11.67	㎥/人	
①洗車頻度と使用水量の管理 ②手洗い水量の適正化	目標	35.00	㎥	評価：優良。月次は6回中6回の全部目標達成。累計も全部達成となった。従来通り社内での洗い物や手洗い時にも、皆が節水意識を持って行っており、とても良い。 【次年度取り組み】継続した削減行動を指示と雨水の有効利用を引き続き検討。
		7.40	㎥/人	
上記　達成手段実践状況評価 ①…△ 洗車は、ほとんど行っていない。給油時、スタンドで簡易洗車をしている。 ②…○　手洗い時の水の出しっ放しをしないよう指示教育した。	実績	39.00	㎥	
		6.50	㎥/人	
	削減量	−4.00	㎥	
		0.90	㎥/人	
	目標対実績比率	1.11		
		0.88		

取り組み計画	達成状況		単位	評　価　結果と次年度の取組内容
8.有価物の取り扱い量増加	基準年度	2019年度	t （トン）	○　目標達成
①新規顧客開拓 ②既存顧客への新提案 ③価格競争力の強化 ④情報収集の強化	目標	6,409.19	t （トン）	評価：良い。前年度は新型コロナウィルス感染、同防止措置の影響で、3月後半から、取扱量が漸減していたが、今期は期首から従来レベル近くに戻り、コロナ減産の影響を受けながらも、期の中頃から目標達成が続き、金属スクラップ受託運搬量も、115.6tと前年度の64tの180%に増加。仕入顧客登録純増件数　418件
	実績	6,752.05	t （トン）	
上記　達成手段実践状況評価 ①…○仕入顧客登録数前期末比純増数231件 ②…○　新規取扱品目を案内した。 ③…○　新規売上先開拓。 ④…○　海外金属相場情報、国内相場情報取得ルートを確保。	増加量	342.87	t （トン）	【次年度取り組み】コロナで中断していた人員増員を再開し、法人取引で、安定的な仕入れを確保し、受託運搬量も増加させるよう社内体制を整える。
	目標対実績比率	1.05		
9.産業廃棄物の取扱量増加	基準年度	2017年度	t （トン）	○　目標達成
①新規顧客開拓 ②既存顧客への新提案 ③価格競争力の強化 ④情報収集の強化	目標	33.25	t （トン）	評価：良。当年度は、コロナ禍で、企業活動が抑制されていたが、その影響に伴い、取引先のオフィス移転に伴う産廃収集もあり、目標の約116%の取扱量となり目標達成。 【次年度取り組み】引き続き、金属スクラップ取引のある取引先を重点的に営業活動を行う
	実績	38.70	t （トン）	
上記　達成手段実践状況評価 ①…×新規契約数前期末比純増数0件 ②…○　プラスチック廃棄物に関して、提案を行った。 ③…○　金属スクラップとセットの取引には価格の割引きを行った。 ④…○　関連省庁、業界団体のHPから情報収集を行なっている。	増加量	5.45	t （トン）	
	目標対実績比率	1.16		
10.地域貢献活動	基準年度	23	回	×　目標未達成
		計数管理のみ	本	
①清掃活動。 投棄された空き缶・ゴミ拾い。 実施回数と回収量	目標	24	回	評価：悪い。実施回数は、目標23回に、当期19回で目標未達成。全員での一斉清掃活動の実施回数が少ないが、個々の清掃活動は行っている。空き缶数は、清掃が行き届くことにより、投棄する人が少なくなり、落ちている数が激減し、目標未達成となった。ただ、本来この方が良い。【次年度取り組み】引き続き、情報提供、発信に対し、地域からのレスポンスを受け取れるコミュニケーション手段を模索するよう指示。
		計数管理のみ	本	
	実績	19	回	
		計数管理のみ	本	
上記　達成手段実践状況評価 ①…△　全社一斉清掃活動が出来ない代わりに日常の清掃を行うことが出来た。	対目標量	−5	回	
		計数管理のみ	本	

取り組み計画	達成状況		単位	評　価　結果と次年度の取組内容
②周辺住民の方々からの金属くず買い受け。	基準年度	90,039.55	kg	○　目標達成
目標：買い受け数量を前年度比2%増加させる。 主要買受け品目：アルミ缶・金属製不用品 **<u>上記　達成手段実践状況評価</u>** ①…○　自治会・子供会、伊丹市近郊在住の方から幅広い買取りを行うことが出来た。	目標	92,740.78	kg	買受数量・・・評価：少し良い。買い入れは、毎月行えている。月次で、7回達成。年間累計目標達成。ポイントカード会員に向けたEメール送信を月に3回「5の付く日」に行い、SNSの活用としてFBの投稿更新、google広告、同マイビジネスの改善を行った。 【次年度取り組み】引き続き、地域に根付いた商売をする施策を取るよう指示。広報活動や地域行事への参画を指示。
	実績	96,406.30	kg	
	対目標量	3,665.52	kg	
	目標対実績比率	1.04		

11.受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	基準年度	－	kg	○　目標達成
1）産業廃棄物からの有価物収拾 ①排出事業者から金属有価物の選別収集の承認を得る。…○ ②金属くず商の能力を存分に発揮する。…○	目標	9,220.1	kg	評価：良い。受託産廃からの有価物収拾量は、目標値に対し149.19%で達成。弊社はもちろん、産廃処理を委託した排出事業者様も、SDGsに参画できていることが良い取り組みだと思う。 【次年度取り組み】産廃処理を委託した排出事業者様がSDGsに貢献されていることを証明することで、お客様に喜んでいただく施策を行いたいと思う。
	実績	13,756.0	kg	
	目標対実績比率	1.49		
2）収集運搬時の飛散事故、漏洩事故0(ゼロ)	基準年度	－	件	○　目標達成
①シート、ネットによる養生確実実施。…○ ②容器の密閉、転倒防止対策確実実施。…○	目標	0	件	評価：良い。年間を通して収集運搬時の産廃の飛散、漏洩事例、事故は起こらなかった。また、法改正により、水銀使用製品産業廃棄物の収集運搬の有無を許可証に明記する必要があり、同廃棄物を収集運搬する時は、破損防止のため、鋼鉄製箱に入れることを更新許可申請時に届け出た。 【次年度取り組み】飛散防止のために掛けるシートを軽量化したものに更新することを検討する。
	実績	0	件	
	目標対実績比率	0		

Ⅵ. 環境関連法規制等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

環境法規制等の名称	要求事項(事業者の義務・責務)	評価方法	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物の適正管理、処理委託。	書類及び業務内容、事業所を確認。	○ 適合
	産業廃棄物の適正管理処理。(管理票、処理委託先、報告等)		○ 適合
廃棄物処理法 (収集・運搬業務)	産業廃棄物の収集・運搬業務。(許可証の内容遵守、車両、管理票、排出事業者、処理委託先、報告等)	書類及び業務内容、事業所を確認。	○ 適合
消防法	賃借社屋　火災報知機の設置(工場500㎡以上) 第21条の4	防災設備業者による検査実施。2年毎1回	○ 適合
自動車から排出される窒素化合物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法(自動車NOx・PM法)	自動車NOx・PM法　適合車の使用。	車検証確認。	○ 適合
大阪府流入車規制	自動車NOx・PM法　適合車の使用。車検証参照。 大阪府生活環境の保全等に関する条例第40条の15、16	車検証確認。	○ 適合
使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	第1章第5条(自動車の所有者の責務) 第2章第8条(使用済自動車の引渡し義務) 第4章第73条(再資源化預託金等の預託義務)	車検証、リサイクル券確認。	○ 適合
特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	特定家庭用機器再商品化法 第2章第6条(事業事業者及び消費者の責務)	廃棄の有無	○ 廃棄実績なし。
フロン排出抑制法 改正フロン排出抑制法が令和2年4月1日より施行。	廃棄時、修理時の ・フロン類の適切な処理 ・回収・破壊の工程の確認(引取り・破壊証明書) ・業務用空調設備の簡易点検及び記録の保存	廃棄の有無 業務用空調設備の使用なし	○ 廃棄実績無し。 業務用空調設備の使用無し
遵守評価:　○・・・適合　違反なし　　△・・・改善後、適合(一部問題あり)　　×・・・不適合　重大な違反あり			

□遵守評価についてのコメント

当年度において、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

□訴訟などの有無

本活動期間中はもとより、過去 3 年間何人からも訴訟等による意義申し立てはありません。

□外部からの苦情

本活動期間中において、外部からの苦情、申し立て　0件。

Ⅶ. 代表者による全体の評価と見直し・指示

【総括】大・中・小項目合わせ、全14項目中、達成が10項目、未達成が4項目となり、前年度より改善し、全体評価は良い。目標設定おいて、CO2排出量、産業廃棄物の排出量は取扱商品数量に産業廃棄物収集運搬量を加えた全社総取扱量1t当たりの原単位に設定、一般廃棄物と水使用量は、従業員1人当たりに設定した。①Ⅰ.CO2の全体排出量は、目標が7.99kg-CO2/tで実績が11.98kg-CO2/tで未達成。総括としての全体評価は、目標値比149%で、前年度同様、未達成。当項目4項目中、電気、ガソリン、LPGの3項目で目標達成、軽油は未達成で前年度より悪化。電力使用量は増加しているが、CO2の排出量は相対的に削減。また、電力供給会社から「再生可能エネルギー100%電力供給証明書」も交付されるに至り、実質的CO2排出量は、極少か0に等しい。Ⅰ.2～5化石燃料（以下、すべて原単位比較）については、2.軽油目標が　目標値比146.5%で上回り、目標未達成。だが、前年度より1.5%改善している。3.ガソリンは、ハイブリット車使用抑制により、目標値比12.8%の好成績で達成。6.LPGは、目標が0.49kg-CO2/tで実績が0.39kg-CO2/tで達成。②廃棄物全般は、7.一廃が達成、7.産廃は、特別排出で未達成。商品の取り扱いに準じて発生する一般・産業廃棄物の再資源化は、一廃は、51.1%に下降、産廃は、廃プラ再生不可で0%。③8.節水は、目標単位を対従業員数で、達成。④9.有価物取扱量は目標値105.34%で目標達成。コロナ禍最悪期からの反動増で、10月以降仕入取引量回復。金属スクラップ受託運搬量も、115tと前年度の64tの約180%に増加。仕入顧客登録数前期末比純増数418件と前年度より増加数増加。取引単位は、店頭買取がさらに小口化しているが、出張引き取り量が増加。10.産廃収集運搬量は、既存の定期引取収集量の回復とオフィス移転案件不用品収集運搬で、達成。⑤11.地域貢献活動は、1)清掃活動が全員での実施が滞り未達成。2)買受量は、コロナ禍の最悪期を脱し、達成。11.受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮は、廃棄物からの有価物収集が達成、飛散・漏洩事故0件で達成。

環境活動の結果は、前年度より好成績となった。コロナの禍中にありながらも、期首の10月から、原単位の基準となる取扱い数量が従来ベースの取引量へと回復基調で推移し、全般的に、環境目標達成に寄与した。経営面では、取引量回復、金属相場価格の5月から高値安定、従前からの電炉直納と利幅大の遠方納品による利幅拡大を進展させていた結果、黒字が拡大した。

来期目標として、環境経営の手段が主に削減目標となっていたが、今後は、環境コストへの積極的な投資が、環境保護と企業成長において必然となってくるので、予算化してシステムに組み込む必要がある。また実施体制も属人化したものでなく、システム(仕組み)で、PDCAを回していけるよう社員の参画を促し、組織立った活動にしていく必要がある。また当社の経営の持続性を担保するため、固定の法人顧客獲得を目指し、効率的な商品の取り扱い数量の増量に挑戦し、原単位環境負荷の低減と原単位利益の向上を実現させ、収益を環境投資にも配分し、環境、経営、持続可能性のバランスのとれた全体解を目指す所存である。

商品1t取扱い当たりの売上総損益の向上(付加価値の向上)	2019年度　1.28万円/t	2020年度　1.61万円/t	○
商品1t取扱い当たりの経常損益の向上（収益性の向上）	2019年度　0.22万円/t	2020年度　0.26万円/t	○
商品1t取扱い当たりの環境コスト	2019年度　0.07万円/t	2020年度　0.06万円/t	○
合計1t取扱い当たりの売上総損益に占める環境コスト	2019年度　4.53%	2020年度　3.91%	○
合計1t取扱い当たりの経常損益に占める環境コスト	2019年度　26.37%	2020年度　23.86%	○

収益性経営評価：良い　基準年度より向上している。

環境経営方針、環境経営目標・環境経営計画、実施体制の変更の必要性については、（以下、必要性　有　無で表す）

環境経営方針…無　内容の変更は無し。環境経営方針は、経営理念とともに、当社の企業活動の指針となっており、意思決定時にも尊重すべきものである。企業価値向上に有意であり、さらに実践していく必要がある。

環境経営目標・環境経営計画・・・無

①二酸化炭素の排出量削減…有　原単位を取扱数量と粗利益額、経常損益で観察検証できるようにした。

②廃棄物の削減…有　　処理コストの同時把握を行った。

③節水…無

④有価物の取扱い量増加…有　量と質の向上が最良なので、原単位を1t当たりCO2排出量、粗利益額、経常損益を指標として扱えるよう整備した。

④''産業廃棄物の取扱い量増加…無

⑤地域貢献活動…無　　買受数量・・・無

⑥環境関連法規制等の順守状況・・・無

⑦緊急事態想定結果/訓練記録…無

実施体制・・・有　社員から志願者を募り、環境経営活動に参加を促す。

以上の見直しをもって、環境目標と経営目標の統合を実現する

2021年10月30日

取締役社長

金田 大地

Ⅷ. その他の取り組みを紹介

① 社として、SDGsへの参画を決めました。当社の出来ることから取り組みます。

エコアクション21に基づく、環境経営によって、下記のゴールとターゲットの達成に挑戦します。

12「つくる責任つかう責任」
2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
13「気候変動に具体的な対策を」
CO2排出量削減し、気候変動抑制に資する。
14「海の豊かさを守ろう」
水資源使用量の削減により、海の水質汚濁を防ぐ。
15「陸の豊かさも守ろう」
清掃活動や化学物質使用の管理をもって、陸地の環境保全に資する。

2「飢餓をゼロに」と BCP(事業継続計画)の一挙両得

災害用備蓄:救缶鳥購入
他社の環境経営レポートで見つけた㈱パン・アキモト様 発信プロジェクト 有事・災害対策に備蓄するパンの缶詰(右写真→)
賞味期限切れの約 6 か月前に回収していただき、NGO などを通じて飢餓地域や被災地にお届けするというシステム。
BCP(防災備蓄)と 2「飢餓をゼロに」の社会貢献・食品ロス軽減推進にと、理に適った取り組みに賛同し、導入しました。

世界にパンを届けよう。
救缶鳥(きゅうかんちょう)プロジェクト。
救缶鳥プロジェクトとは、非常食を備えることで、世界の飢餓救済の活動に参加できるプロジェクトです。
パン・アキモトは世界の飢餓対策支援活動に取り組んでいます。
開店当時から「安心・安全でおいしいパン」をお客様に提供するという原則を守ってきました。
それは義援物資として届けられるパンの缶詰「救缶鳥」においても変わりません。
アキモトのパンで、世界中に元気と笑顔を広めたい。私たちの夢に是非ご協力ください。

(株)パン・アキモト様
Webページより出典

② 今回初めて、電力供給会社から「再生可能エネルギー100%電力供給証明書」を受領
電力供給会社である 出光グリーンパワー(株)様より、供給される電力が再生可能エネルギー100%であることを証明いただきました。
※出光GP様の証明期間と活動期間に、ずれがある事をご承知ください。

idemitsu

再生可能エネルギー100%電力
供給証明書

有限会社　金田商事　様 に対し、

「再生可能エネルギー100%電力」を供給したことを以下の通り証します。

1. お客様名　有限会社金田商事
2. ご使用場所　兵庫県伊丹市口酒井２丁目７番２１号
3. プラン名　プレミアムゼロプラン

【期　間】 2020年4月1日～2021年3月31日
【発行日】 2021年12月17日

【備考】
1. 本証明書は、お客様と当社とのご契約期間（上記期間）において「再生可能エネルギー100%電力」を供給したことを証明するものです。
2. 「プレミアムゼロプラン」は、再生可能エネルギー（FIT電気を含む）100%の電源構成に、当社が調達したトラッキング月非化石証書を組み合わせることで、再生可能エネルギー100%かつ CO_2 排出量をゼロとするプランです。
3. 詳細な電源構成については、当社HPをご覧ください。
https://www.idemitsu.com/jp/business/green/igp/power_supply/index.html

東京都千代田区大手町１丁目２番１号
出光グリーンパワー株式会社

GREEN POWER　GREEN POWER

以上